



## 2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年8月14日

上場会社名 株式会社グラッドキューブ 上場取引所 東  
コード番号 9561 URL <https://corp.glad-cube.com/>  
代表者（役職名） 代表取締役 CEO（氏名） 金島 弘樹  
問合せ先責任者（役職名） 専務取締役 CFO（氏名） 財部 友希（TEL） 06-6105-0315  
半期報告書提出予定日 2025年8月14日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

## （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	863	10.9	△49	—	△52	—	△52	—
2024年12月期中間期	778	7.6	△105	—	△108	—	△85	—
	1株当たり 中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益					
	円 銭		円 銭					
2025年12月期中間期	△6.28		—					
2024年12月期中間期	△10.44		—					

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため、記載しておりません。

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期中間期	2,215	699	31.5
2024年12月期	2,570	750	29.2

（参考）自己資本 2025年12月期中間期 699百万円 2024年12月期 750百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—	0.00	—	—	—
2025年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年12月期の業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,791	14.9	△47	—	△61	—	△62	—	△7.50

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年12月期中間期	8,423,340株	2024年12月期	8,327,640株
2025年12月期中間期	32株	2024年12月期	32株
2025年12月期中間期	8,405,680株	2024年12月期中間期	8,215,278株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当中間期の経営成績の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足資料の入手方法）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間貸借対照表 .....	4
(2) 中間損益計算書 .....	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当中間会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当中間会計期間における日本国経済は、雇用・所得環境の改善が見られ、個人消費が持ち直してきたものの、米国の通商政策等の影響により、景気の先行きについて不透明感が高まっております。

当社が主たる事業領域とする国内インターネット広告市場の2024年の市場規模は、動画広告市場の拡大などより堅調に伸長し、前年比9.6%増の3.6兆円と3年連続で過去最高を更新しております。(出典：株式会社電通「2024年日本の広告費」)。

また、国内SaaS市場においては、日本企業を取り巻く課題の解決にはデジタル技術の活用が不可欠であるとの認識のもと、生成AIの活用をはじめ、DX(デジタルトランスフォーメーション)投資が旺盛であります(出典：株式会社富士キメラ総研「2025 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望 市場編」)。

ITサービス市場においては、生成AIやDXといったデジタル変革が加速する中、企業はITシステムへの投資を積極的に行っています。しかし、システムエンジニアの不足が深刻な課題となっており、この状況はシステム開発を外部に委託する動きを後押しし、今後も委託需要は拡大するものと予想されます。

このような状況下、マーケティングDX事業では、サイト解析ツールの機能拡充、動画制作体制の強化、オンラインセミナーの実施、SNSを活用した発信など、拡大を続けるインターネット広告市場と、インターネット利用者のニーズに応えるべくソリューションを提供してまいりました。また、テクノロジー事業では、競馬予想AIのサービス拡大、生成AIを用いたデータ分析やシステム開発及び改修、企画提案型の受託開発、生成AIを用いた業務効率化を目的としたオンライン学習プログラム「リスナビeラーニング講座」を提供するなど、引き続き、データ解析力と開発力を活かした幅広い事業を展開してまいりました。

この結果、当社の当中間会計期間の経営成績は、売上高863,104千円(前年同期比10.9%増)、営業損失49,509千円(前年同期は営業損失105,370千円)、経常損失52,275千円(前年同期は経常損失108,998千円)、中間純損失52,790千円(前年同期は中間純損失85,768千円)となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。なお、第1四半期会計期間より報告セグメントの利益又は損失の測定方法を変更しており、前年同中間期との比較・分析については、当該変更を反映させた金額を用いております。

#### ① マーケティングDX事業

当事業における取り組みとして、ネット広告事業につきましては、前事業年度に引き続き、営業体制の強化による既存顧客からの継続的な発注依頼、協業パートナー企業からの案件受注を推し進めております。業務提携先企業への人材派遣ではマーケティング支援を行いながら広告案件依頼に繋げる取り組みができており、広告案件の受注に繋がっております。また、当中間会計期間においてショート動画プラットフォーム「TikTok」の公式機能である「TikTok Shop」を活用したEC支援サービスの提供を開始いたしました。引き続き、短尺の動画広告やSNS運用との相乗効果を図ってまいります。

また、SaaS事業につきましては、スワイプ型ランディングページ作成サービスである「SwiPage」やSiTestの一部機能を独立させた「SiTest Engage」をリリースいたしました。またSiTestの「ノーコードウィジェット」への新たな動画機能の拡充を図りました。

この結果、当中間会計期間における売上高は732,414千円(前年同期比12.7%増)、セグメント利益は258,203千円(前年同期比8.4%減)となりました。

#### ② テクノロジー事業

当事業における取り組みとして、SPAIA事業につきましては、SPAIA競馬では、顧客満足度向上を目的としたシステム開発・改修などのサービス改善施策を実施し会員数増加を図ってまいりました。スポーツメディアプラットフォームのSPAIAでは、既存取引先との協業による新サービス「AI虎イアル」をリリースいたしました。引き続き、新たなファンエンゲージメントの創出を目指してまいります。また、スポーツデータセンター「DRAGON DATA CENTER(ドラゴンデータセンター)」で多種多様なプロスポーツ及び海外のスポーツデータも取り入れたことにより、SPAIA全体の会員数は132,498人(前年同期比15.6%増)となりました。DX開発事業につきましては、近年、上場企業に求められるIR活動が高度化されていることから、AIを利用し、質が高くかつ効率的なIR動画を生成できる新サービス「AvaTwin」の提供を開始いたしました。順次サービス領域を拡大してまいります。

この結果、当中間会計期間における売上高は130,690千円(前年同期比1.9%増)、セグメント損失は179,063千円(前年同期は251,098千円のセグメント損失)となりました。

## (2) 当中間期の財政状態の概況

### (資産)

当中間会計期間末における資産の残高は2,215,754千円となり、前事業年度末に比べ355,155千円減少いたしました。これは主に長期借入金の返済等による現金及び預金が333,398千円減少したことによるものであります。

### (負債)

負債の残高は1,516,723千円となり、前事業年度末に比べ303,838千円減少いたしました。これは主に短期借入金が100,000千円、未払金が33,377千円、未払費用が35,616千円及び長期借入金が108,329千円減少したことによるものであります。

### (純資産)

純資産の残高は699,031千円となり、前事業年度末に比べ51,317千円減少いたしました。これは主に中間純損失の計上により利益剰余金が52,790千円減少したことによるものであります。

### (キャッシュ・フローの状況)

当中間会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ333,398千円減少し、1,327,886千円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは90,136千円の支出(前年同期は55,244千円の収入)となりました。これは主に税引前中間純損失52,315千円の計上、売上債権及び契約資産の増加額3,557千円、未払金の減少額28,387千円及び契約負債の減少額7,749千円があったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは5,329千円の支出(前年同期は45,719千円の支出)となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出5,330千円があったことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは237,931千円の支出(前年同期は138,964千円の支出)となりました。これは主に短期借入金の減少額100,000千円、長期借入金の返済による支出119,405千円及び社債の償還による支出20,000千円があったことによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2025年2月14日の「2024年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

## 2. 中間財務諸表及び主な注記

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当中間会計期間 (2025年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,661,285	1,327,886
売掛金及び契約資産	476,841	480,399
前渡金	160,154	155,188
仕掛品	—	361
その他	71,991	75,814
貸倒引当金	△61,761	△61,825
流動資産合計	2,308,510	1,977,824
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	41,579	41,579
減価償却累計額	△11,770	△14,755
建物附属設備(純額)	29,808	26,823
工具、器具及び備品	8,098	7,797
減価償却累計額	△5,906	△6,193
工具、器具及び備品(純額)	2,191	1,603
有形固定資産合計	32,000	28,427
無形固定資産		
ソフトウェア	68,151	63,379
ソフトウェア仮勘定	634	882
無形固定資産合計	68,786	64,262
投資その他の資産		
投資有価証券	84,085	83,168
破産更生債権等	363	363
長期前払費用	1,427	1,149
その他	73,409	59,634
貸倒引当金	△363	△363
投資その他の資産合計	158,922	143,951
固定資産合計	259,708	236,641
繰延資産		
株式交付費	1,641	491
社債発行費	1,048	797
繰延資産合計	2,690	1,288
資産合計	2,570,910	2,215,754

(単位:千円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当中間会計期間 (2025年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	407,830	414,434
短期借入金	100,000	—
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	232,917	221,841
未払金	108,933	75,556
未払費用	146,300	110,684
未払法人税等	—	5,429
未払消費税等	48,424	38,287
契約負債	153,319	145,570
その他	27,495	37,907
流動負債合計	1,265,220	1,089,711
固定負債		
社債	60,000	40,000
長期借入金	495,341	387,012
固定負債合計	555,341	427,012
負債合計	1,820,561	1,516,723
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	371,751	372,536
資本剰余金	361,556	362,244
利益剰余金	17,072	△35,717
自己株式	△32	△32
株主資本合計	750,348	699,031
純資産合計	750,348	699,031
負債純資産合計	2,570,910	2,215,754

## (2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
売上高	778,357	863,104
売上原価	131,161	269,128
売上総利益	647,195	593,976
販売費及び一般管理費	752,566	643,485
営業損失(△)	△105,370	△49,509
営業外収益		
受取利息	9	790
受取手数料	2,079	2,048
債務勘定整理益	146	1,496
その他	747	271
営業外収益合計	2,982	4,606
営業外費用		
支払利息	2,998	4,527
投資事業組合運用損	1,396	794
その他	2,216	2,050
営業外費用合計	6,611	7,373
経常損失(△)	△108,998	△52,275
特別損失		
固定資産売却損	—	39
固定資産除却損	669	—
特別損失合計	669	39
税引前中間純損失(△)	△109,668	△52,315
法人税、住民税及び事業税	909	475
法人税等調整額	△24,809	—
法人税等合計	△23,899	475
中間純損失(△)	△85,768	△52,790



## (3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前中間純損失(△)	△109,668	△52,315
減価償却費	11,117	13,637
のれん償却額	25,940	—
顧客関連資産償却額	4,387	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	17,644	63
有形固定資産売却損益(△は益)	—	39
受取利息及び受取配当金	△9	△790
支払利息	2,998	4,527
投資事業組合運用損益(△は益)	1,396	794
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	167,801	△3,557
前渡金の増減額(△は増加)	△5,058	4,966
仕入債務の増減額(△は減少)	△78,846	6,603
未払金の増減額(△は減少)	△60,517	△28,387
契約負債の増減額(△は減少)	28,758	△7,749
預り金の増減額(△は減少)	△2,739	△2,363
その他	25,790	△36,376
小計	28,995	△100,906
利息及び配当金の受取額	9	790
利息の支払額	△3,309	△4,332
法人税等の支払額	△4,879	△3,468
法人税等の還付額	34,428	17,780
営業活動によるキャッシュ・フロー	55,244	△90,136
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△18,517	—
無形固定資産の取得による支出	△22,560	△5,330
その他	△4,642	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△45,719	△5,329
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△100,000
長期借入金の返済による支出	△118,859	△119,405
社債の償還による支出	△20,000	△20,000
新株予約権の行使による株式の発行による収入	224	1,473
その他	△329	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△138,964	△237,931
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△129,439	△333,398
現金及び現金同等物の期首残高	1,738,947	1,661,285
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,609,507	1,327,886

## (4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	マーケティングDX 事業	テクノロジー 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	650,163	128,193	778,357	—	778,357
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	650,163	128,193	778,357	—	778,357
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	650,163	128,193	778,357	—	778,357
セグメント利益又は損失(△)	281,846	△251,098	30,748	△136,118	△105,370

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△136,118千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

前第4四半期会計期間に実施したworkhouse株式会社からの事業一部譲受について、前事業年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当中間会計期間において確定しております。これにより、「テクノロジー事業セグメント」におけるのれんの金額が減少しております。

当中間会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	マーケティングDX 事業	テクノロジー 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	732,414	130,690	863,104	—	863,104
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	732,414	130,690	863,104	—	863,104
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	732,414	130,690	863,104	—	863,104
セグメント利益又は損失(△)	258,203	△179,063	79,139	△128,649	△49,509

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△128,649千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

当中間会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に反映させるために、一部の販売費及び一般管理費の配賦方法を見直し、報告セグメントの利益又は損失の測定方法の変更を行っております。

なお、前中間会計期間のセグメント情報は、当中間会計期間の測定方法に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。